



故渡辺孫也様 を偲んで

2023年2月26日 金属部会にて
金属部会 副部会長 中山佳則

ご経歴

- 1937年 樺太敷香（しくか）町生れ、次男（祖父の孫の一字を受け継ぐ）
祖父の孫市氏が樺太にわたり渡辺金物店を営む。
父の遜（ゆずる）氏は建設された王子製紙(株)敷香工場に勤務。
- 1945年 終戦～3年間 ロシア人との交流、ロシア語授業あり
- 1949年 東京の王子小学校卒業、立教中学入学
- 1952年 名古屋市の東海高校入学 バンカラ、高下駄通学
- 1960年 名古屋大学工学部金属学科卒業
住友金属工業(株)入社、和歌山製鉄所からスタート
- 1997年 鹿島製鉄所技術部長 住友金属工業支配人 鹿島日本ステンレス所長
- 2012年 埼玉大学理工学研究科修士課程（環境制御工学）卒業
統括本部化学技術振興支援実行委員会委員長（中山委員として参加）
- 2014年～2018年 日本技術士会埼玉県支部 第2代支部長
- 2019年 名誉支部長

思い出

○和歌山製鉄所時代の8年間

高度成長期が始まる時期
1000トン高炉、厚板やコールドストリップ工場建設
住金が新しく鋼板事業へ進出

大学から始めたボート（全日本選手権準決勝）を漕ぎたくて、3名でボート部

設立、1963年の新潟国体よりナックルフォアで参加

→ カラオケに行くと、「琵琶湖周航の歌」が十八番

○鹿島製鉄所時代

- ・和歌山と違った考え方を意識的にとって世界一をめざした。昭和40年代は、深絞り用自動車鋼板の量産技術の開発を理化学研究所とのプレス成形性共同研究会を行い推進。やがて、日本の鉄鋼業界の協力体制が素晴らしく、この技術分野は世界一となった。

思い出

- ・続いて、石油やガス運搬用のラインパイプ用大径鋼管量産、連続鋳造、連続圧延、連続焼鈍などが推進され、日本の鉄鋼生産技術が世界の最先端となる。
→ このような時代に製鉄所でその一端に触れられたことは幸せ者
- ・フランスの製鉄所で技術援助、イランのパイプ工場にはクレームや商談でよく行った。
- ・日本鉄鋼協会での品質管理部長、日本ステンレスとの合併事業経験

・ここでも自然にボートの設立成功

利根川沿いの環境もあり、潮来高校からの優秀なボート選手が入部した。

今では、日本製鉄(株)ボート部として、常に優勝目指して頑張っている。遺伝子の伝導。



写真1 2018年第95回全日本社会人選手権優勝（シェルフォア）日本製鉄（株）東日本製鉄所ボート部

思い出

○第2の人生

・技術士個人事務所としての初仕事

サラリーマン時代に関係のあった焼却設備製造会社との仕事で、「焼却残渣の炭化物」の調査を埼玉大学に相談した結果、修士課程で若い学生と一緒に研究することになった。→ 渡辺さんの紳士的で温かな性格と探求心の凄さ

・日本技術士会での活動開始

住友金属工業に40年間勤務し、退社後に技術士登録し、金属部会に入会、日本技術士会の生活が始まった（63歳？頃～）。

2002年：埼玉県技術士会発足、日本技術士会中小企業活性化研究会

2012年：日本技術士会埼玉県支部発足

県在住の技術士全員が埼玉県支部会員へ移行（950名規模へ）

「一般社団法人技術士さいたま、NPO法人彩の国技術士センター」も同時に立ち上げた。

思い出

・日本技術士会科学技術振興支援実行委員会の委員長（2012年～）

科学技術振興機構（JST）主催のサイエンスアゴラが2009年より始まり、2012年に初めて、上記委員会で出展した（in日本科学未来館）。

確か理科実験などに熟練した技術士3名を抜擢し、実演付きで2日間実施した。

2012年がきっかけになり、コロナ禍前の2019年までは毎年上記委員会で出展した。

→ 渡辺さんの成果だと思います。

毎年テーマがあり、最近では、新しい知識や創造の推進を狙ったテーマになっている。



写真3 毛利衛日本科学未来館館長（当時）を囲んで
毛利館長（中央）、渡辺さん（右端）

思い出

- ・ 渡辺技術士事務所として

埼玉大学理工学部機械工学の名誉教授
(株)トップテクノ社長
渡辺さん

の3者で作った金属研磨研究会で中小企業支援を目的にし「医療用の穿刺針の開発、国産化」を成功させた。

丸刃のノウハウ所持の企業が、県と産学官諸団体の支援で、開発と実験に邁進した結果であり、JSTの産学官連携ジャーナルに掲載された(右図)。

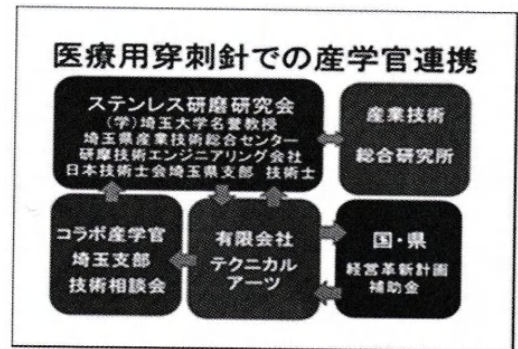


図1 医療用穿刺針の開発時の産学官連携組織
山形龍司；JST 産学官連携ジャーナル，Vol.11，No.7，2015

日本技術士会や若い技術者へ

- ・ 人間関係が第一
- ・ 特に幹部や社員との信頼関係が絶対必要
- ・ 指導する場合は、自分がその企業の社員になったつもり、また、それ以上にベストを尽くすこと。
- ・ 開発や認定試験の合格など、目に見えるものが残ると幸い。
- ・ 指導する企業において、キーパーソンの方々とお付き合いして、積極的に楽しく業務を行うこと。

渡辺孫也様から教えていただいたこと

- ・ 企業内技術士や独立技術士のいずれの場合でも、あまり無理をしないこと。基本的には楽しくできること。
- ・ 目の前の仕事に全力を尽くすこと。
- ・ 人間関係を大切にすること。
- ・ できれば、指導企業を固定できることが望ましいが、あまり多くを望まないこと。
- ・ 何かを始める場合に、人を集めるあるいは同志を募るのを上手にやる。
- ・ やはり、人望が重要。
- ・ 生涯一技術者を目指そう。

渡辺孫也様の御冥福を
お祈りいたします。

PE INTERVIEW

渡辺 孫也
WATANABE Magoya

INTERVIEWER **中山 佳則**
NAKAYAMA Yoshinori

渡辺孫也氏は、樺太に生まれ、第二次大戦後小学校5年の夏に本州に引き上げてきました。名古屋大学卒業後住友金属工業（株）（現、日本製鉄（株））に入社して和歌山製鉄所や鹿島製鉄所の製造現場や技術部門で勤務して活動しました。その後渡辺技術士事務所を開設して埼玉県で技術士として支部活動を行い地元の中小企業を支援しております。

Mr. Magoya WATANABE was born in Karafuto, and moved to Japan after World War II. in 1948. After graduating from Nagoya University, he joined Sumitomo Metal Industries, Ltd. (currently Nippon Steel Co., Ltd.) and worked at manufacturing sites and technical departments at Wakayama and Kashima Steel Works. After that, he opened the Watanabe PE's Office and joined in Saitama Prefecture branch of IPEJ.

キーワード：金属工学，製鉄所，モノ造り，冶金管理

1 はじめに

1.1 お名前の由来についてお伺いします。

「祖父孫市は樺太にわたり大泊町で渡辺金物店を営んでおりました。父は遜（ユヅル）で当時建設された王子製紙（株）敷香（しくか）工場に勤務しておりました。自分は次男で「孫」という一字を受け継ぐことになりました。この名前はだれにでもすぐ覚えてもらえることで良かったと思いました。サラリーマン時代から、今でも孫さんとか孫ちゃんと親しく呼んでくれるので、今では祖父に感謝しております」

1.2 小学校～高校時代

「小学校3年生のとき、終戦を迎えました。当時、戦後の小学校ではロシアの授業があり、引揚までの3年、ソ連人（ロシア人）との付き合いができたのは良い思い出です。その後、1949年、東京都北区で、王子小学校を卒業しました。中学はキリスト教の立教中学でした。高校は父の転勤で、愛知県春日井市に移り、名古屋市の仏教で厳しい東海高校へ、当時はバンカラでの高下駄で通いました。その後名古屋大学に入学することになりました」

1.3 大学時代はいかがでしたか。

「大学は工学部で、金属学科に進み、卒論は物

理冶金でジェット機のブレード用Ni基耐熱合金についてコンサルーク真空溶解での試作試験を行うことになりました。当時は真空溶解技術が盛んな時で、新しい設備で新プロセスの実験を体験することができました。金属学というのは結果が多く条件によって決まるものであり、「事実は条件にしか如かず（百聞は一見に如かず）」という名言があることを知りました」

2 就職先の業務

2.1 住友金属工業に40年間お勤めになられたね。和歌山製鉄所からのスタートですね。

「1960年、当時は日本の高度成長期が始まる時期でした。和歌山に配属になったのですが丁度1年経過すると計画していた高炉を中心とした上工程およびホットストリップ工場が一斉に稼働となり、当時としては最先端の1000トン高炉を持つ製鉄所になりました。翌年には、厚板やコールドストリップ工場が続いて設置され、鋼管の住金が鋼板事業に新しく進出した時だったのです。中長期計画では1961年から2年ピッチで高炉数基が建設予定になっておりました」

2.2 鹿島製鉄所ではどんなお仕事をされましたか。

「1968年、鹿島製鉄所は和歌山製鉄所の経験

渡辺技術士事務所 所長
技術士（金属部門）

1937年 樺太敷香町生れ
1960年 名古屋大学工学部金属学科卒業
1960年 住友金属工業（株）入社
1997年 鹿島製鉄所技術部長 住友金属工業支配人 鹿島日本ステンレス所長
2012年 埼玉大学理工学研究科修士課程・環境制御工学卒業
科学技術振興支援実行委員長、ステンレス鋼研磨研究会
2014年～2018年 日本技術士会埼玉県支部長
2019年 名誉支部長



渡辺 孫也氏

から和歌山と違った考え方を意識的にとって世界一の製鉄所を目標とした製鉄所づくりを行いました。生産性を高めること、同時にQCD競争力を高めることでした。当時は日本で自動車の国産化を進めるに当たり、深絞り用自動車用鋼板の量産技術の開発を自動車メーカーから強く要求され、理化学研究所の指導のもとにプレス成形性共同研究会を行い推進してゆきました。やがてこの技術分野では世界一になった日本鉄鋼業界の協力体制が素晴らしかったことが思い出されます。その後、石油やガスの運搬用の高級ラインパイプ用の大径鋼管の量産、連続鋳造、連続圧延、連続焼鈍など連続化とオンライン化等が推進され、日本の鉄鋼生産技術が世界の最先端となりました。このような素晴らしい発展の時代に製鉄所でその一端に触れることができたことは最高の幸せ者と思えました。

海外もフランスのユジノールのダンケルク製鉄所で技術援助を行ったり、イランのパイプ工場やテヘランにはクレームや商談でよく出かけました。

すべてが軌道に乗ってきた頃からは日本鉄鋼協会の品質管理部会長を仰せつかり、毎年実施される他社の各製鉄所と交流するのが楽しみでした。

その後日本ステンレスとの合併事業があり、鹿島ステンレス製造所へ転勤となり、合併事業を行うと共に新設備の事業計画と設計・稼働を行いました。その後38年間続いた製鉄所の業務から東京本社のステンレス・チタン事業部へ転勤しました」

2.3 ボート部の設立に貢献されたそうですね。

「高校まで運動は何も経験がありませんでした

ので、大学ではボート部に入りました。3年生の時は本ちゃんの全日本選手権のエイトの代表クルーとして、準決勝まで進むことができました。

入社後配属された和歌山市は風光明媚な都市で大きな紀の川が流れています。川を見るたびにボートを漕ぎたくなりました。ここで製鉄所にお願ひしてボート部の設立を許可してもらい、3名の経験者とともに、1963（昭和38）年の新潟国体から毎年、ナックルフォアで参加することが可能になりました。製鉄所の若いアイアン・マン達がよく頑張ってくれました。

その後茨城県鹿島製鉄所に転勤することになりました。近くにある潮来高校は男女共ボート部があり、横利根川に面して艇庫があって理想的な環境でした。潮来高校からのボート選手も喜んで入社され、自然にボート部ができてしまいました。今現在は日本製鉄（株）のボート部として良き後継者に恵まれて元気いっぱい、常に優勝を目指して頑張っております」



写真1 2018年第95回全日本社会人選手権優勝（シェルフォア）日本製鉄（株）東日本製鉄所ボート部

3 第2の人生

3.1 技術士で開業を目指したのですね。

「きっかけとなったのは、東京勤務の課長クラスの時でした。当時部長クラスの先輩から技術士

の資格等を取りなさいといわれて試験を受けました。今考えると非常にありがたいことでした。その後 1992 年に日本技術士会・金属部会が鹿島製鉄所に工場見学にいられました。概況説明とご案内に参加させていただき、日本技術士会・金属部会を知りました。

個人事務所としての初仕事はサラリーマン時代にお世話になった焼却設備製造企業から、産業廃棄物からできる炭（焼却残渣の炭化物）にも特徴があるので調べてほしいという相談があり、埼玉大学に相談した結果、大学院に入学して修論テーマとして、そのテーマを研究することになりました。大学では、若い学生と一緒に大変お世話になりました。その結果、若干興味ある結果がでて修士論文として学会にも報告することができました。大学でお世話になった先生方とは、今でも何かあればお会いして楽しいお付き合いをさせていただいております」

4 日本技術士会での活動

4.1 どのようにスタートされたのですか。

「住友金属工業（株）を退職後、技術士の登録をし、本部の金属部会に入り本会の生活は始まりました。金属部会で歓迎会や説明会で活動を知りました。その後、各県単位の技術士会が次々と新設され、埼玉県技術士会も 2002 年に発足しました。当時は埼玉県技術士会として本会の中小企業活性化研究会に参加しておりました。写真 2 は埼玉県大会が行われた時のパネル討論会の場面で、大変盛況でした。その後、本会は地域に密着した各県支部組織を設置することになりましたので、2014 年に埼玉県支部が新しく発足しました。

公益社団法人日本技術士会の埼玉県支部になるに当たって同じ時期に「一般社団法人技術士さいたま」と「NPO 法人彩の国技術士センター」の 2 つの組織も同時に立ち上げました。今では立派に発展しております。

支部の設立に当たり本部が大変立派な埼玉県支部設立記念祝賀会を開催してくれました。当時の上田埼玉県知事をはじめ、5 名の国会議員、県関

係幹部等集まってお祝いをしてくださいました。埼玉県支部では県在住者全員が支部会員となりましたので会員数は 950 人程度に増えました。このような大きな組織となりましたので今後の支部活動の発展、財政問題も含めて将来を大いに期待したいと考えております。なお、2 期 4 年間、第 2 代目支部長を務めさせていただきました。その間埼玉県のいろいろな官公庁や関連団体と連携をとり、中小企業の支援を重点に地域密着した活動を強化して参りました。できるだけ地域密着した活動によって地元が発展するように努力したいと思っております」



写真 2 日本技術士会中小企業活性化研究会
中小企業交流実行委員会及び埼玉県技術士会の企画運営

4.2 日本技術士会科学技術振興支援実行委員会で委員長をされましたね。

「本部の科学技術振興支援実行委員会を担当した時、当時は各県において技術士の支援業務として小・中高校生などに対して理科実験や科学技術の面で支援することが強く望まれている時期でした。ちょうど 2009 年から始まった科学技術振興機構（JST）の科学の祭典であるサイエンスアゴラが日本科学未来館（東京・お台場）で毎年開催されておりました。ここでは科学技術に関するコミュニケーターとして技術士が最も実力を発揮する最適なイベントでありました。ある時、良き先輩に勧められて、2012 年に初めて参加しました。

最初の年は出し物をどうするか不安でしたが、子供理科実験等にベテランの技術士も多く、数名が集まって 2 日間の理科実験のスケジュールを楽しむことができました。以後毎年継続参加により発展をしております。写真 3 はサイエンスア

ゴラに参加したときの毛利館長（当時）を囲んだ記念写真です。



写真3 毛利衛日本科学未来館館長（当時）を囲んで毛利館長（中央）、渡辺さん（右端）

当時は科学と社会が繋ぎ合うことが主眼でしたが最近では、新しい知識や創造の推進がテーマになっています」

5 プライベート（渡辺技術士事務所）

5.1 ステンレス鋼研磨研究会とは何ですか。

「以前お世話になった埼玉大学理工学部機械工学名誉教授と（株）トップテクノの社長と技術士の3者で作った金属研磨研究会で中小企業を支援するのが目的です。医療用品である穿刺針を開発して国産化しました。開発は誠に小さい企業ではあるが、丸刃という伝統的商品のノウハウを持った元気な企業が、県と産学官の諸団体に支援されて、企業全員が一丸となって開発と工場実験に邁進した結果であります。開発完了後、JST産学官連携ジャーナルに掲載されました（図1）」



図1 医療用穿刺針の開発時の産学官連携組織
山形龍司；JST産学官連携ジャーナル，Vol.11，No.7，2015

6 日本技術士会や技術士全般について

6.1 日本技術士会や技術士全般についてご意見をお願いします。

「中小企業の支援を行いました。終わった時の幹部の笑顔が忘れられません。これが楽しみです。」

やはり人間関係が第一です。とくに幹部や、社員との信頼関係が絶対に必要です。自分がその企業の社員になったつもり、またはそれ以上にベストを尽くすことだと思います。JISマークの取得や認定試験の合格、あるいは開発とかレベルアップ等目に見えるものが残ると幸いです」

6.2 若い技術者に対してご意見をお願いします。

「自分の経験を基に述べます。JISマーク表示制度や電力会社等の特殊部品の認定試験の支援では、支援する機関の雰囲気を読み、様々なキーパーソンの方々ともお付き合いして良い仕事ことができました。皆さんは積極的に、業務を行うことで、楽しくチャンスをつかめるよう頑張ってください」

■インタビューを終えて

渡辺氏には埼玉県支部や金属部会を通じてご指導をいただき、また、このようなインタビューの機会を持たせていただき本当に光栄で感謝しています。氏は、定年退職後、中小企業の支援の一環として、大学の修士課程で新しいテーマを研究したり、産学官連携のお仕事に取り組みされるなど、飽くなき好奇心があり、まさに、生涯一技術者として見習うべき方かと思えます。これからも、पोर्टで培われた精神力でご活躍されることを期待します。

中山 佳則（なかやま よしりの）
技術士（金属部門）

パナソニック（株）アプライアンス社
ゴールドチェーン事業部
日本技術士会 金属部会幹事 広報委員会委員
e-mail：nakayama.yoshinori@jp.panasonic.com



「渡辺孫也様を偲ぶ会」のご挨拶

我々の大先輩の渡辺孫也さんが亡くなられました。年末での入院の後の闘病生活を送られているところまでは存じ上げていたが、突然の訃報に愕然としました。コロナ前までお元気で、部会でお会いさせていただいていました。コロナで会合形態が変わったとでも。埼玉県支部の10周年記念式典や記念誌で大活躍されていました。記念式典に出かけてお会いできなかったことが今となっては本当に悔やまれます。

和鐵の勤めていた会社の大先輩で、当たり前のように見ていた工場や設備の企画から立ち上げまで行われていたことは、偲ぶ会で中山さんが紹介してくれた経歴で知りました。薄板鋼板や耐サワーラインパイプなどでもご苦勞されたと聞いて、自分と重なる部分も多い大先輩だったと実感した次第です。もっと語りたかった。もっと教えを乞いたかった。もっと議論したかった。でも、それも叶わぬ願いとなりました。

金属部会で、弔意をどのように表すか、執行役で議論しました。私は、弔電や献花のようなものではなく、偲ぶ会の記録、皆様の寄せ書きを集めてお渡ししたらどうかと提案し、賛同頂いた皆さんが定例部会で「偲ぶ会」企画・実行していただきました。最近オンラインで参加いただいている方々や、新たな参加者にとって、何のことかわからないし、仲間内での盛り上がりが見えたかもしれません。しかし、まだ社会情勢的にリアルで集まれない現状では、金属部会を支えていただいた大先輩を失った悲しみを、関係者で分かち合う場としては、最善ではないにしても、現在私たちがとれる最良の行動だったと信じています。

金属部会に参加いただいている皆様、我々は、技術士としてのCPD活動や情報発信などに部会活動をフル活用するのはいうまでもありません。その部会を構成するのは人であり、その部会を支えるのも人です。もちろん、今のようないオンラインやハイブリッドの会合もその一形態ですが、それ以前の、少ない関東圏の方々に、懸命に部会活動を支えてきてくださった先輩方のご努力も忘れてはならないと思います。最近、温故知新と銘打って色々古い話もお聞かせ願っているのも、そのご努力の一旦でも知りたいという思いからです。

今回も長くなってしまいました。このあたりで文を閉じたいと思います。渡辺孫也さん、ありがとうごさいました。本当にご苦勞様でした。先輩が愛し、気にかけていただいていた日本技術士会、金属部会は、我々後輩が、しっかり受け継いでいきます。安らかに眠りください。

金属部会長田中和明。

部会員・関係者の寄せ書き

【渡辺孫也さんを偲ぶ会について】

- ▶直接、渡辺孫也氏を存じ上げていませんでしたが、生前のご様子がよく解りました。
- ▶故人の業績等は知りませんでした。また後年大学で研究されましたこと素晴らしいことだと思います。
- ▶良かったと思います。
- ▶技術の発展に尽くされたことがよくわかりました。
- ▶毎回ありがとうございます。各部会の動きがわかり 参考になります。
- ▶ご退職後、技術士業務をこなしながら大学院を修められたとのこと、大変素晴らしいと感じました。技術士の鏡のようなお方と感じました。
- ▶大変良くまとめられて、渡辺様を偲ぶにふさわしい内容だと思います。ありがとうございました。
- ▶申し訳なくも、技術士会、金属部会に入ったのが最近で、存じなかったこともあり、経歴等ご説明頂戴してようやく理解したため。経歴などのご紹介は有り難かった。
- ▶中山副部長からのお話は、故人への敬意・弔意が良く伝わり、とてもありがたいものでした。
- ▶深く感謝いたします。 故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。
- ▶渡辺様の「日本技術士会や若い技術者へ」のアドバイスは、大変ありがたいお言葉と思いました。
- ▶渡辺孫也様は囲碁が大好きで、確か日本技術士会の囲碁の有志の集まりで幹事か世話役をされていたはずです。自分も一度遊んでいただいたことがありました。ご冥福をお祈り申し上げます。
- ▶偲ぶ会のリモート化の一つのモデルになったのではないのでしょうか。
- ▶渡辺氏の功績を表した良いスピーチでした
- ▶高齢者となって、大学院入学。驚くばかりです。少しでも見習いたいと感じました。
- ▶故人にお世話になった、あるいは知っている参加者にとっては、たいへん意味のあることです。
- ▶渡辺様については存じ上げていませんが、出来れば、金属部会の発展に貢献され、且つ、ご存命の方にも過去を振り返る意味の講演の場があっても良いと思いました。
- ▶仕事の在り方、自分を見つめなおす機会となった。

- ▶若輩者だった私をいつも優しい笑顔で迎えてくれたことが思い出されます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。
- ▶昨日は所用があり参加出来ませんでした、これからもよろしくお願いします。
- ▶私は、故渡辺孫也氏を存じあげていないのですが、皆様のお話から素晴らしい方がおられたことを知ることができ、技術士会の繋がりを心強く感じました。
- ▶倫理のご講演大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ▶熱意や探求心、向学心に感銘を受けました。
- ▶今後もオール技術士会活動や展示会、討論会、国地方提案活動を！
- ▶全員に対してできることではないと思いますが、渡辺孫也様のお人柄が偲ばれて良かったと思います。
- ▶大変良い視点だと感じました。
- ▶故人への弔意の示し方は、一つではない。組織や、皆の置かれている環境により、工夫があっても良いのではなかろうか。今回のオンラインでの偲ぶ会も一つのやり方と思われる
- ▶日本鉄鋼業界発展の礎を築かれた方の事例で参考になりました。
- ▶故渡辺孫也氏の偲ぶ会、中山副部会長の心温まる資料・ご紹介⇒黙祷、素晴らしかったです。今後も良い伝統として、継続していきましょう！

【渡辺孫也さんへの追悼寄せ書き】

▶直接お会いすることはできませんでしたが、定年を過ぎてからのアグレッシブな活動を拝聴して、とても肝銘を受けました。続くような技術士でありたいと改めて思いました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

▶私も渡辺様のような生き方げできればと思います。ご冥福を祈ります。

▶昔、孫也様が初めて金属部会に来られた時お話をさせて頂きました。その後、何回も話をしました。その紳士的な対応は印象に残っています。本当に残念です。御冥福をお祈り致します。

▶技術の発展はじめ技術士会の発展にご尽力されありがとうございます。ご冥福をお祈り致します。

▶技術士会、埼玉県支部への大変なご貢献とご尽力に際し、深く謝意を表します。

▶私は、住友金属和歌山製鉄所に勤務していたとき、鹿島製鉄所でご活躍されている渡辺様のことをよく存じ上げ、お世話になったことを覚えています。日本技術士会金属部会では、部会の会合や見学会などでご一緒させていただき、渡辺様の真面目で優しいお人柄に接し尊敬の念を抱いていました。渡辺様からのお誘いで技術士囲碁会に入会しました。囲碁会では、互先（たがいせん、ハンディ無し）で対局をし、勝ったり負けたりして楽しいひと時を過ごさせていただきました。今後、渡辺様と対局できないことが非常に残念に思っています。ご冥福をお祈りいたします。小林経明

▶ご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

▶故渡辺孫也様のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申しあげますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。故人のご功績は永遠です。後輩技術士として、その志を引き継いでまいりたく精進いたします。

▶私は、技術士になって間もないため、渡辺様のことは存じあげませんでした。技術士としてのお仕事のご功績は勿論ですが、紳士的で温和な性格と探究心の凄さの点は、クライアントとの接し方、あるべき姿を、後輩技術士に教えてくださった方だと思いました。

▶渡辺孫也様には親しくご厚誼をいただきました。特に、埼玉県支部の発足にあたって依頼があり当方も埼玉県支部の会員となって微力ながら協力をしたこと、囲碁で一度だったか遊んでいただいたこと、金属部会創立60周年記念誌で論文作成にご協力いただいたことなど色々と思い出す次第です。ご冥福をお祈り申し上げます（新井田有慶）。

▶本当に長い間ご苦勞様でした。金属部会並びに埼玉県支部では大変お世話になりました。渡辺様のお人柄に魅かれてお付き合いさせていただきました。技術士の後輩として、頑張っ行って行こうと思います。天国より見守っててください。

▶ご冥福をお祈りいたします。

▶渡辺様の残してくれた偉業・業績を金属部会の後輩の我々が、引き継いで行きたいと思います。

▶自身の時代の技術を育て、そして次世代の人材を育ててきた渡辺様のお働きは、今後何世代にもわたって人類の生活を支えていくと思います。安らかにお眠りください。

▶私は長年、アルマイト処理に従事していたことから定年退職を機にその発展の歴史を調べていたところ、アルマイト技術の工業化を世界で初めて確立したのが日本人であることを今になって知りました。改めて、現在の技術が戦前、戦中、戦後の苦難の中を歩んでこられた先人の努力の上にあることを痛感した次第です。渡辺様も先人の一人としてご活躍されたことに敬意を表します。まずは、ゆっくりお休みください。

▶渡辺孫也様の訃報に接し、大変驚いております。いつまでもお元気で長生きして下さるものと思っておりましたので、残念でなりません。共に過ごした日は、今も私にとって大切な思い出です。心よりご冥福をお祈りいたします。 ”亡き人を終の別れと弔えど 心は消えずありし面影”

▶小生は、浦和市内のとある店で、故渡辺支部長に面会させて戴き、埼玉県支部に入会させてもらいました。入会後にも、中小企業支援業務のお取り計らいにご尽力を賜り、誠にありがとうございました。同じ金属部門の大先輩であり、さらなるご指導を仰ぎたく願っておりましたが、それも今は叶いません。日々前進することをお誓いし、ご冥福をお祈り申し上げます。

▶とても温厚な方で、お会いした時の笑顔が思い浮かびます。ご逝去を大変残念に思います。

▶存じあげておりませんので、寄せ書きは遠慮させていただきます。

▶長い間、金属部会にご尽力いただきありがとうございます。ご冥福をお祈りいたします、

▶私のような新参加者が、誠に恐縮なのですが、人との関係を大事にすること。まさしくその通りだと思います。ありがとうございました。

▶私（山崎宏）はIHI時代に鹿島製鉄所にてAK厚板熱処理炉の設置に参画し、その後、旧日本ステンレス（鹿島）にてローラクエンチの設置を担当し、茨城県鹿嶋市と縁がありました。その後に孫也さんと会いました。孫也さんは、旧住友金属工業(株)を経て隣の旧日本ステンレスに居られました。その頃、私は思うところがあり、IHIを辞し、技術士試験に挑戦し、技術士になっておりました。孫也さんが技術士であることを知り、鹿嶋市に行く用事があったので訪ねました。私の方が若輩でありながら、技術士会の内情に詳しくなかったので、孫也さんの求めに応じて技術士会及び金属部会の活動などをお話しいたしました。それから、金属部会へ出席されるようになり、県支部の設立に尽力され、同支部長に就かれました。孫也さんから技術士会「金属部会」に参画するようになったきっかけは「貴方」に会ったことだと、お話頂い

たことがあります。結局、旧日本ステンレスでお目に掛かってからコロナ渦の直前までの数十年にわたって親しくさせていただき、感謝いたしております。

▶部会や委員会で相談に乗っていただいた時のいつも温厚な笑顔が忘れられません。

▶渡辺様が科学技術振興支援実行委員会委員長を退任されてから、何も分からない私がおの後に就任しましたので、委員会運営について、色々と教えて頂きまして、大変助かりました。またわくわく理科教育の会では、ご一緒に川口高校の実習授業に参加させて頂きまして、お人柄も加わって、大変楽しい一時をすごさせて頂きました。何回かの実習授業の帰り道にご一緒に一杯飲みながらお話したのがとても思い出深い印象として残っております。

駅とかで出会った時も気さくに声をかけていただくこともあり、気品があつて物静かな渡辺孫也様が思い出されます。謹んでご冥福をお祈りさせていただきます。

▶これまでありがとうございました

▶故渡辺孫也氏への「思い出」 奥村 貞雄 (1955卒 機械)

共に、名古屋大学工学部卒という事で、生前は、下記の同窓メンバー共々、良きご交誼を保ち、続ける事が出来ました。心よりのお礼とご冥福を祈念する次第です。

同窓メンバー：(1)故野崎徳彦 (1955卒 機械) (2)三浦幸一郎 (1957卒 化学) (3)故佐野健治 (1959卒化学)

①住金鹿島技術部時代、孫さんの上司は、小生の名大同期生(1)でした。ご両者生前中は、良く話題の交換をしたものです。(1)の偲ぶ会は、孫さんが主催しました。(1)は、生前、孫さんを良き後継者と、評価していました。

②孫さんは、埼玉から、よく神奈川へ来ていました。神奈川県支部には、小生の他、(2)、(3)が、いて、当時支部の要職についていました。孫さんは、視察を兼ねての訪問でしたが、横浜中華街での懇親は、楽しい意見の交換でした。

③関東甲信8県支部の設立時、孫さんは、初代埼玉県支部長(故人)を必死に支え、支部運営を軌道に乗せました。当時、8県支部設立の世話人をしていた小生は、埼玉へ出掛けては、孫さんを応援したものです。

思い出は尽きません。孫さんのモットーは、「まじめに、仲良く、強く」だっと思ひます。 以上"

▶この度のお知らせに大変驚きました。心からお悔やみを申し上げます。

▶渡辺孫也さん。年末の退院の際に、養生に専念するとのメールをいただき、またお会いできるものとばかり思っていました。それから1ヶ月で帰らぬ人となられてしまいました。偲ぶ会でのご経歴を拝見し、私の大先輩に当たり、日頃、当たり前のように見ていた工場を作り上げられたご本人だと知りました。もっと、生きていてほしかった。もっと教えてほしかった。聞きたいことがたくさんあります。でも、それも今では叶わぬ願いとなりました。残された我々は、渡辺先輩のあの柔和な笑顔と丁寧な言葉使いと、静かな物腰の向こうにある、とてつもないご業績を胸に、先輩が導い

てくださった鉄鋼業を金属部会をしっかりと支えていきます。先輩、本当にご苦労様でした。

▶渡辺孫也様の教え紹介 ①クライアント(企業)と楽しく業務を行う ②目の前の仕事に全力を尽くす ③やはり、人望が重要 肝に銘じて、頑張ります。クライアントに尊敬されるグローバルな生涯一技術者めざし、世の中にはないものを産み出していきます！

▶埼玉在住のこともあり、技術士会入会当初から大先輩の渡辺孫也様には何かにつけ目をかけて頂き、またお世話になりどおしでした。思い出は数多くありますが、中でも住金鹿島製鉄所の工場見学が特に印象深く記憶に残っています。おそらく一般の工場見学ルートには無いバックヤードでの高炉滓の炉外排出現場を目の当たりにしてインパクトを受けたと共に、この滓がやがて建設骨材に再生されることを思うと大変勉強にもなりました。この様な機会に巡り合えたのも、ひとえに渡辺孫也様のご尽力があつてのことと思います。心からご冥福をお祈り致します 金属部会 池田大亮

公益社団法人日本技術士会 金属部会一同